第六節 同 声 会

一 年譜——同声会の歩み

明治二十二年（一八八九）

六月二十四日 同好會発会。

七月 東京音楽学校本科より初めての卒業生四名を出す。

十月 会則制定。会長・伊澤修二。

同二十三年

四月 『同好會雑誌』第一号発行。

同二十九年

一月三十日 同好會は「東京音楽學校同聲會」として新発足。

四月 『同聲會雑誌』第一号発行。会名の由来は「同声相和シ異声相応ズ」

（詩経）とも「同声相応シ同氣相求ム」（易経）ともいわれる。会員数

四六七名。

大正三年（一九一四）

八月 会則改定。

同四年

一月 同声会復興。会長・湯原元一。

四月 『同聲會會報』第一号発行。支部設置。会員数五〇五名

同十五年

会長・村上直次郎。会員数一〇七七名。

昭和三年（一九二八）

会長・乗杉嘉壽。

同四年

七月 東京音楽学校の創立五十周年記念会に向け、会員より寄付金を募る（一〇二円）。

昭和七年

九月 音楽会館建設計画を検討、趣意書・計画案などを会員に配布し寄付を募る（二〇二十五円）。

同八年

三月 卒業式で同声会賞を授与（全卒業生の中から一名。昭和十六年三月より各科一名となる）。

同九年

一月 『同聲會報』第二〇〇号発行。会員数一五二〇名。

三月 上野児童音楽学園を設立開園。上野男児合唱団を設立。なお、上野児童音楽学園および上野男児合唱団については、本百年史『東京音楽学校校篇 第二卷』第三章第四節に記述されているので、参照されたい。

同十五年

二月 同声会唱歌詞募集。

同十八年

『同聲會會報』休刊。

同二十三年

四月 『同聲會報』復刊（No. 266）。会長・小松耕輔。会員数二〇〇〇名

を越す。同声会を社団法人（公益法人）にするため法人基金（目標額三十万円）の募金を開始。目標達成に向け各都道府県支部に金額を分担、卒業年度ごとに委員を置き連絡を図る。会報を有料（部五十円）とし、会員バッジを作製。

十月八日 文部省、同声会を社団法人として認可、「定款」制定。

十一月 文部省、同声会の通信教育を認可。

同二十四年

一月二十七日 「社団法人・東京音楽學校同聲會」を登記。

三月 通信教育の受講生募集開始（昭和三十三年度まで実施）。

昭和二十七年

五月 会長・山田耕筰。

同三十三年

五月 会長・外山国彦。

同三十五年

九月 会長・下総皖一。

十一月 東京芸術大学の八十周年記念祝賀会で同声会功労者(一〇五名)を表彰。同大学にピアノを十台贈呈。

同三十七年

五月 会長・柴田知常。

同四十四年

十月二十七日 同声会主催 音楽教育創始九十周年記念式典を実施。

同四十五年

一月 『同声会公報』第三〇〇号発行。

同四十七年

六月 会長・井上武士。

同四十八年

四月 同声会新事業として卒業生演奏会第一回を開催(虎ノ門ホールにて五日間連続、総勢二一四名参加)。

同五十年

四月 会長・鳥居忠五郎。

同五十二年

同声会主催 東京芸術大学創立九十周年記念事業。

同五十四年

十月 同声会主催 音楽教育創始百周年記念行事を実施。記念出版として『同声会会員名簿』発行。

同五十七年

会員研究発表助成を始める(昭和六十二年年度まで実施)。

同五十九年

二月十八日・十九日 第一回邦楽講習会を開催。

昭和六十年

会長・酒井弘。

同六十一年

十二月 東京芸術大学創立百周年記念募金開始。

同六十三年

会員数七〇〇〇名を越す。

平成元年(一九八九)

四月二日「伊澤修二先生顕彰碑」建立。

同六年

六月 会長・中山富士雄。

同九年

十二月 会長代行・山田浅蔵。

同十年

東京芸術大学新奏楽堂竣工。同声会より西陣織タペストリー(原画・平山郁夫)を寄贈(百周年記念基金より拠出)。

同十一年

五月 会長・渡邊高之助。

同十四年

三月末日をもって社団法人東京音楽学校同声会を解散。

四月 東京芸術大学音楽学部同声会として新発足。

二 歴代同声会会長・理事長

会 長

明治二十二年

伊澤修二

〃 二十四年六月

神津専三郎

〃 二十六年九月

高嶺秀夫

〃 二十六年九月

高嶺秀夫

〃 二十六年九月

高嶺秀夫